

News Release

2018 年 5 月 11 日

～ スプレー式ゾルゲル圧電センサの開発及び事業化を支援 ～ QB 第一号ファンド 「熊本大学による圧電センサ事業化プロジェクト」 への 投資について

西日本シティ銀行（頭取 谷川 浩道）は、地域の事業会社等と共同で出資している「QB 第一号ファンド」（以下「本ファンド」）において、「熊本大学による圧電センサ事業化プロジェクト」（以下「当プロジェクト」）に対して、第 3 号のプレ投資^(注)案件となる投資を行いましたので、お知らせします。

当プロジェクトは、熊本大学において、同大学大学院先端科学研究部の小林 牧子准教授、田邊 将之助教、中妻 啓助教らが研究するスプレー式ゾルゲル圧電センサ作製技術を活用し、さまざまな圧電センサの開発を目指すものです。

今後も、当行は地域金融機関として、本ファンドを通じて大学発ベンチャーの成長及び地域経済の活性化を積極的に支援してまいります。

（注）プレ投資…事業化を目指すシーズ段階（研究段階）の技術に対する投資

記

1. 対象企業の概要

プロジェクト名	熊本大学による圧電センサ事業化プロジェクト
技 術 研 究 者	熊本大学大学院先端科学研究部 小林 牧子准教授、田邊 将之助教、中妻 啓助教
事 業 内 容	曲面に塗布可能なスプレー式ゾルゲル圧電センサ作製技術の事業化
資 金 使 途	当プロジェクトの事業化を目的とした事業会社との共同研究費

2. 出資の理由

本件は、本ファンドの特徴であるプレ投資機能を活用し、大学が有する技術シーズの事業化を支援するものであり、下記の点を評価し投資を行いました。

（１）成長性

今後、圧電センサは、IoTの進展などを背景にさまざまな分野での活用が期待されており、センサ市場の拡大が想定されること。

（２）多様性

本圧電センサは、可屈曲性を生かしたフレキシブルデバイスへの展開、耐熱性を生かした高温化センシング等への展開などさまざまな用途への可能性があること。

（３）地域経済の活性化

大学等の研究成果を活用した新たな事業の創出及びベンチャー企業の創業支援を行うことにより、地域経済の活性化が期待されること。

以 上

参 考

『QB 第一号ファンドについて』

本ファンドは、当行が九州大学の特定関連会社である株式会社産学連携機構九州と共同で設立した QB キャピタル合同会社が運営するもので、九州地域の大学の研究成果を活用した新産業の創出による九州経済活性化を目的に設立されました。

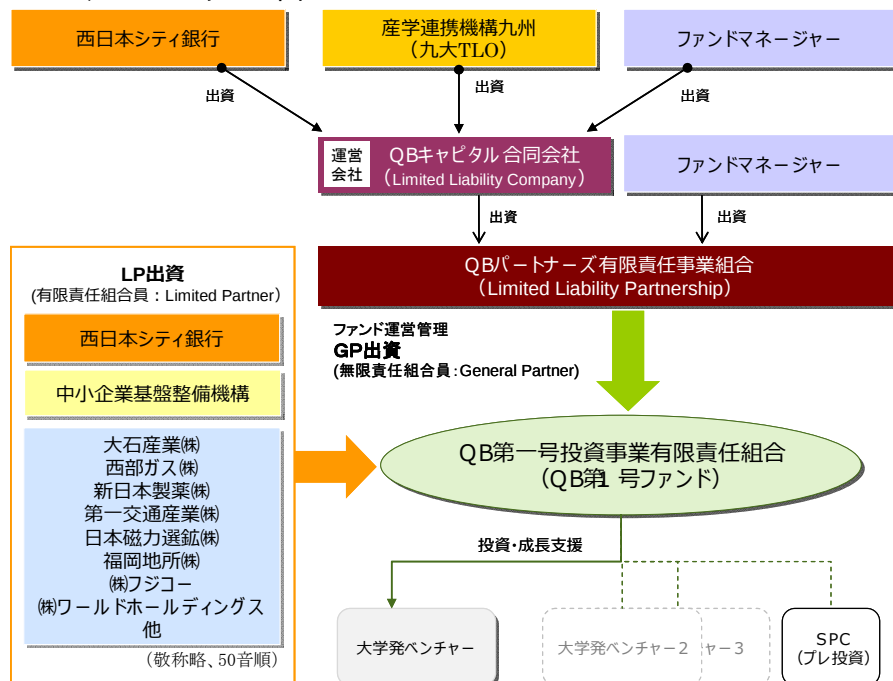
1. ファンドの概要

名 称	QB 第一号投資事業有限責任組合（通称：QB 第一号ファンド）
設 立 日	2015 年 9 月
フ ァ ン ド 総 額	約 31 億円
無 限 責 任 組 合 員 (GP : General Partner)	QB パートナース有限責任事業組合
有 限 責 任 組 合 員 (LP : Limited Partner)	株式会社西日本シティ銀行、独立行政法人中小企業基盤整備機構 地域事業会社 他
存 続 期 間	10 年間

2. 運営会社の概要

名 称	QB キャピタル合同会社
設 立 日	2015 年 4 月
所 在 地	福岡市早良区百道浜 2-1-22 SRP センタービル
出 資 者	株式会社西日本シティ銀行、株式会社産学連携機構九州 他
代 表 社 員	坂本 剛、本藤 孝

3. ファンドスキーム図



本件に関するお問い合わせ先
法人ソリューション部 渡辺・多良木 TEL092-476-2741